

さらなる「図書館先進県づくり」に向けて ～佐賀県立図書館協議会から提言書～

県立図書館の運営に関して館長の諮問に応じ、意見を述べる佐賀県立図書館協議会（吉野徳親委員長 委員10人）から8月18日(金)に提言書が出されました。

これは、「図書館先進県づくり」に取り組む県立図書館に対し、各委員からの意見をまとめ提言書として出されたものです。

提言では、資料費の確保をはじめ、サービス向上のための専門職員の確保、郷土関係の資料や研究成果を公表すること、市町立図書館や図書館未



設置市町への支援を強化し日本一のネットワーク構築など8項目がとりあげられています。

提言書を参考に、今後も地域や利用者の皆様に満足いただける図書館づくりを進めていきます。

<提言項目>

1 「図書館先進県づくり」について

- (1) 「佐賀県公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(仮称)を策定し、その達成に努める
- (2) 資料費の確保に努める
- (3) 郷土関係の資料収集と研究成果の公表に努める
- (4) サービス向上のために専門的職員の確保に努める
- (5) 市町立図書館と図書館未設置市町への支援を強化し、日本一のネットワークをつくりあげる
- (6) 図書館のPRとサービス全般について、県民の声を十分取り入れる

2 施設について

- (1) 全面改築を含めた施設整備の基本計画を策定する

3 指定管理者制度について

- (1) 指定管理者制度については、どのような問題点があるのか検証し、経費節減だけで判断しない

図書館で「支える力」学ぶ ～中高生の職場体験学習で9校から～

総合学習の一環として「働くことの意義」や「働く楽しさや苦勞」を知ること、職業観を育てようという職場体験学習（インターンシップ）で高校3校から9人、中学校から6校21人の生徒が図書館を訪れました（6月から9月末現在）。

生徒たちは、総合カウンターでの利用者サービスだけでなく、購入した本のラベル貼付や書庫での本の整理など裏方の仕事も多いことに一様に驚いていました。

図書館での就業体験が、将来の職業選択の際に少しでも役立てば幸いです。



AED(自動体外式除細動器) を設置しました

年間4～5万人といわれている心筋梗塞や不整脈といった心臓発作による突然死の大部分は、心室細動(心臓が小刻みに震えるだけでポンプの役割を果たしていない状況)によるものです。

この心室細動を正常な状態に戻す唯一の方法は除細動(心臓への電気ショック)です。

県立図書館では、9月上旬にAED(自動体外式除細動器)を2階総合カウンター内に設置しました。



お知らせ

アスベスト除去工事のため図書館資料の一部の閲覧・貸出等中止
11月4日(水)～11月30日(木)